

FUJI OIL GROUP 2011

第83期 年次報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

二つとない、をつくる。不二製油

“Simply Unique” Fuji Oil

“创造，独一无二” 不二制油

二つとない、をつくる。

不二製油

証券コード：2607

新中期経営計画

「Global & Quality 2013」スタート

— For Sustainable Growth —

～ 新たな成長戦略が始まります ～

10年ビジョンの第2ステップとして
グローバルな質的成長を目指します

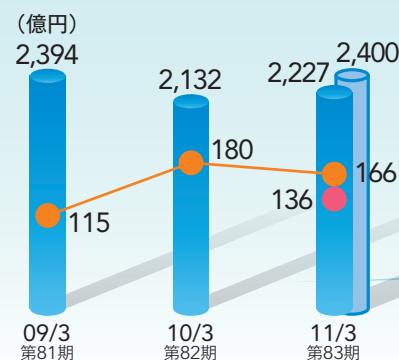
当社グループは10年ビジョンとして「ニッチ、スペシャル、グローバル」に、健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めていただく食の素材メーカーの実現に向けて取り組んでいます。その第1ステップとして2008年度より中期経営計画「革進・実行 2010」を推進してまいりました。コア事業への集中を柱に事業基盤を強化したことにより、収益性の向上や資産効率改善、海外グループ会社の成長など成果を上げることができました。今後の3年間は10年ビジョンの第2ステップとして、グローバルな質的成長を目指す「進化の3年間」と位置づけ、新中期経営計画「Global&Quality 2013」を策定いたしました。

「革進・実行 2010」

(2008年4月1日～2011年3月31日)

基本方針

- 1 選択と集中で経営体質を変える
- 2 組織と運営の改革
- 3 財務体質の強化

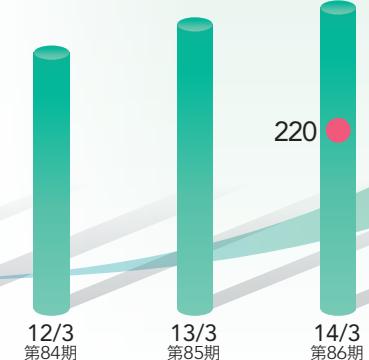


STEP 1

STEP 2 Global & Quality 2013

グローバルな、質的成長に向けての
「進化の3年間」

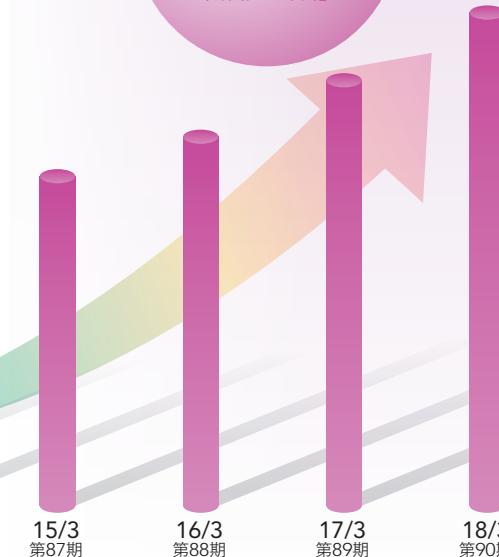
数値目標
2,750億円



STEP 2

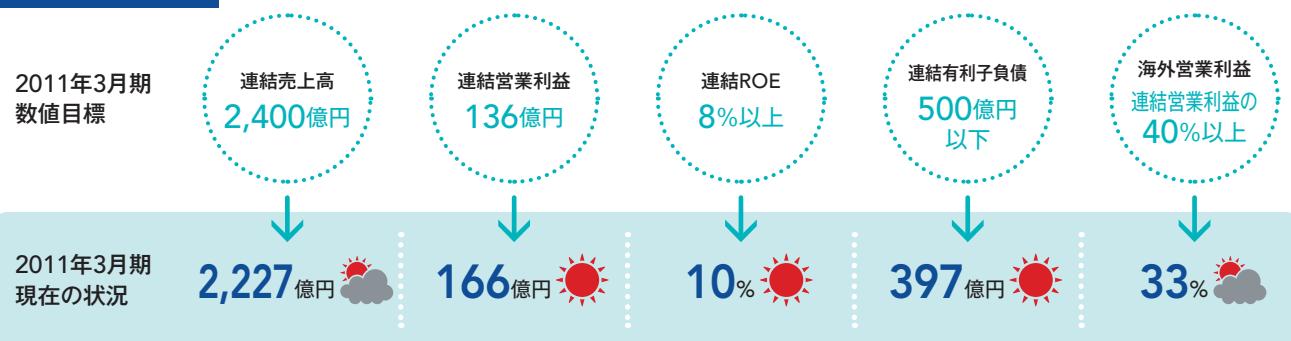
STEP 3 進化 II

ビジョンの実現に向けての
「飛翔の4年間」



STEP 3

数値目標の達成度



※ 億円未満を四捨五入しています。

「Global & Quality 2013」

(2011年4月1日～2014年3月31日)

基本方針

- 1 グローバル経営の推進
- 2 技術経営の推進
- 3 サステナブル経営の推進

「二つとない技術力、海外力で競争優位を築き、グローバルに成長を果す企業グループ」

新中期経営計画では、2014年度での当社の目指す姿として「二つとない技術力、海外力で競争優位を築き、グローバルに成長を果す企業グループ」を掲げ事業を展開していきます。具体的には、コア事業の深掘りや新素材・新事業の創出、海外での新成長、提案営

業・顧客とのコミュニケーションの強化を重点施策として推進します。また、企業のCSR（社会的責任）を重点課題と捉え、本業による食の課題解決を図ります。

次のページでは3つの基本方針の詳細を紹介します。

改革の継続と発展軌道への「進化の3年間」

新中期経営計画「Global&Quality 2013」では、新興国の成長やグローバルな規制変化、震災による産業構造の転換など、激変する事業環境に対応するため、次の3つの基本方針をベースに事業を展開します。

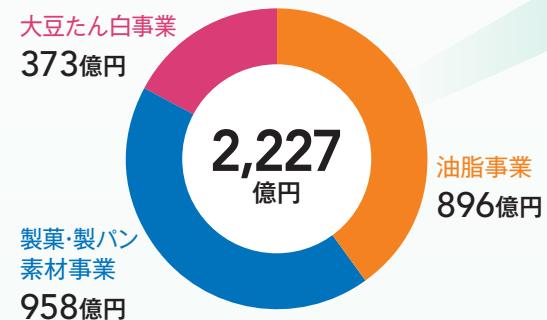
事業推進のベース

事業体質の強化

- 組織・体制の改革（グローバル経営体制の構築など）
- 事業構造改革の継続（小売り事業の再構築など）
- コスト競争力の強化（生産・購買・物流におけるコストダウンの継続など）

現在の姿

2010年度 セグメント別 売上高



基本方針 その1

グローバル経営の推進

スペシャリティ製品の海外での販売拡大を図る「量の海外」と、国内における付加価値・サービスの向上といった「質の国内」により、日本を含めたグローバルな成長を目指します。

グローバル重点事業課題



基本方針 その2

技術経営の推進

技術、素材、ソフト提案力が相乗効果を生む組織全体の力を、当社では技術経営と定義しています。技術経営の推進により、中期的な競争優位の源泉となる研究開発や、顧客との連携強化を図ります。

- コア事業の深掘研究 新製品の創出と周辺事業の育成
- 顧客関係力の強化 素材提案を通じて実現するサービスの価値を向上
- 研究開発推進力の強化 基礎研究と事業の連携強化

環境負荷低減技術の開発

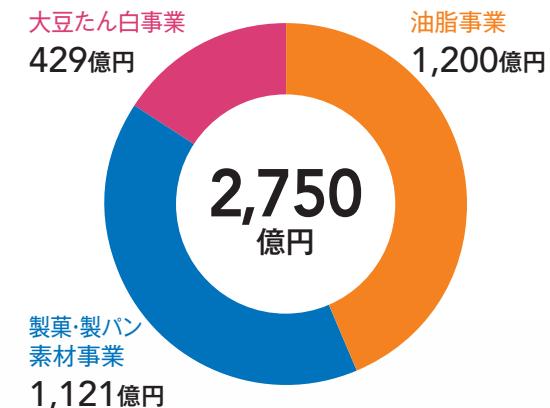
健康・栄養関連に注力（医療食、流動食への応用）

ソフト開発の強化（新組織体制とプラザの新設）

ビジョン実現に向けての「飛翔の4年間」へ

将来の姿

2013年度 セグメント別 連結売上高目標



数値目標	2014年3月期	[ご参考] (2011年3月期)
連結売上高	2,750 億円	2,227 億円
連結営業利益	220 億円	166 億円
連結営業利益率	8%	7.4%
連結ROE	10%	10%
海外営業利益	連結営業利益の40%	33%

基本方針 その3

サステナブル経営の推進

企業の社会的責任を重要課題と捉え、本業を通じて社会との共生を図り、食の課題解決に貢献します。

- CSRビジョンの推進
- 環境ビジョンの制定と推進

新中期経営計画の確実な実行により グローバル経営の推進に取り組みます。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災で被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を心からお祈り申し上げます。当社グループにおきましては、関東地区の工場で設備の損傷等があったものの大きな被害には至りませんでした。

さて、2010年度の事業の概況とともに、新しい中期経営計画の方針についてお話しさせていただきます。

Q >> 2010年度の業績について 総括をお願いします。

A >> 2010年度の食品業界は、消費者の節約志向などにより国内需要が落ち込むなど厳しい状況にありましたが、当社グループは新興国の需要獲得や提案営業の強化により販売を拡大し、増収を確保いたしました。一方、利益につきましては原料価格の高騰により減益という結果となりました。しかしながら、期初発表の連結営業利益予想162億円に対して実績は166億円と予想を上回っています。

セグメント別にみますと、油脂事業はチョコレート用油脂の販売価格低下や原料相場上昇により国内外ともに利益が落ち込みました。製菓・製パン素材事業では、原料相場上昇に対する価格改定が一部で遅れ減益となりましたが、販売数量ではマーガリンを中心に伸長し、全体として堅調に推移しました。大豆た



代表取締役社長
海老原 善隆

ん白事業は再生プランを引き続き実行した結果、生産性の改善とコスト削減が進み、事業基盤を強化することができました。大豆たん白事業では、国内の大豆たん白食品や大豆たん白機能剤と、中国での大豆たん白素材が好調で増益となりました。

Q >> 2011年度の重点施策を 教えてください。

A >> 2011年の重点施策として、次の4点に取り組みます。
1点目は、原料価格上昇に対応してスピーディーに価格改定を実施していくことです。

2点目は、コア事業であるチョコレート用油脂の競争力強化です。カカオ相場の変動で収益が左右するという不安定要素はありますが、原料購入先の多様化によるコストダウンや、機能性付加による差別化で競争力を高めます。

3点目は、製菓・製パン素材事業の海外展開強化です。アジア・中国ではパンや洋菓子の伸びが著しく、その需要増を如何に取り込むかが課題となっています。マーガリン、クリーム、チョコ

コレートの豊富な品揃えを強みに、開発機能の強化を図りながら提案営業を強化していきます。

4点目は、小売商品事業の改善です。豆乳・デザートなどの小売商品事業はトーラク株式会社に集約し、合理化・効率化を進めます。

Q >> 中期経営計画「革進・実行 2010」の 成果についてはいかがでしょうか。

A >> 当社グループは2008年度を起点とする10年ビジョンを掲げ、将来目指すべき企業像として「ニッチ、スペシアル、グローバルに、健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めていただく、食の素材メーカー」を掲げています。その第1ステップと位置づけた中期経営計画「革進・実行 2010」では、「選択と集中」「組織と運営の改革」「財務体質の強化」の3つの基本方針を掲げ事業を推進してまいりました。

この計画がスタートした当初は原料高騰やリーマンショックなど厳しい経営環境の中にありましたが、従業員全員が危機意識



(注) 上記グラフの数値はいずれも連結ベースの数値です。

トップメッセージ

を持ち、販売拡大とコストダウン、経費節減に最大限の力を注ぎました。具体的には、チョコレート油脂やチョコレートなどのコア事業に経営資源を集中し、効率化とコストダウンを徹底。また、カンパニー制の導入により事業戦略の一元化を図り、変化の激しい市場ニーズにスピーディーに対応しました。赤字であった大豆たん白事業は、再生プランの推進により収益改善を目指しました。これらの結果、海外での伸長や、製菓・製パン素材事業のコスト削減、大豆たん白事業の黒字転換を果たし、大幅な収益改善をみることができました。

Q >> 新しく策定した中期経営計画について教えてください。

A >> 当社を取り巻く経営環境は、国内では少子高齢化による市場の縮小や、海外競争他社の参入による競争激化が顕著となってきます。海外では新興国の成長により需要は拡大するものの、大量消費による原料不足と価格高騰が予測されます。このような状況の中、当社グループはグローバルな市場ニ

ズに対応するため、新中期経営計画「Global&Quality 2013」を策定しました。10年ビジョンの第2ステップとして、「グローバルな、質的成長に向けての『進化の3年間』」と位置づけ、「グローバル経営の推進」「技術経営の推進」「サステナブル経営の推進」を3つの基本方針として掲げています。

Q >> グローバル経営を推進するための施策を教えてください。

A >> 「グローバル経営の推進」では、2010年度から推進している“質の国内、量の海外”を継続していきます。“質の国内”ではコア技術の深掘りで基幹事業を強化するとともに、顧客対応力を高めて、新市場の創出や未開拓市場への展開を進めます。一方、“量の海外”ではアジア・中国を重点市場として各カンパニーの経営資源を集中的に投入します。また、新興国などに当社のビジネスモデルを移植して販売数量拡大を目指します。さらに販売力強化のために現地企業とのアライアンスの拡充や、M&Aも積極的に検討したいと考えています。

グローバル市場において成長を遂げるためには、変化する市場ニーズにスピーディーに対応する体制づくりが不可欠です。そのために各カンパニーの傘下に海外グループ会社を置き、事業責任を担う組織に改編。また、国内にアジア・中国市場の販売をサポートする中国室、海外マーケティング室、海外販売部を新設しました。さらには東南アジア地域統括会社を現地に設立し、ニーズの変化に応じて迅速対応ができる体制を整えていきます。一方で、グローバルに活躍する人材の育成も急がねばなりません。当社では早くからグローバル展開に取り組んでおり、従業員全員が海外赴任に対して肯定的な意識を潜在的に持っています。実際の海外赴任では語学力も重要ですが、何よりも現地でのOJTを重視し、実地にコミュニケーションをとりながら業務を習得していきます。このように現場で培った経験が一人ひとりの自信につながり、それが当社全体の強みである海外対応力を支えています。

Q >> 技術経営とサステナブル経営の推進についてお聞かせください。

A >> 「技術経営」とは、技術、素材、ソフト提案力を複合し、生産・販売を含めた組織全体の総合力で事業を推進していくことです。その中でも最も重要で、原動力となる分野が新素材だと考えています。新素材を生み出す研究体制として、基礎研究の段階から研究開発部門と事業部門が連携を図るとともに、コア事業の深掘り研究などを進め、開発スピードを向上していきます。「サステナブル経営」においては、持続可能な社会に貢献するため、CSR経営、環境経営を推進します。また、環境面では不二グループ環境ビジョンのもと、国内外で数値目標を設定して、CO₂削減や節水、リサイクル等に取り組んでいきます。

Q >> 最後に株主へのメッセージをお願いします。

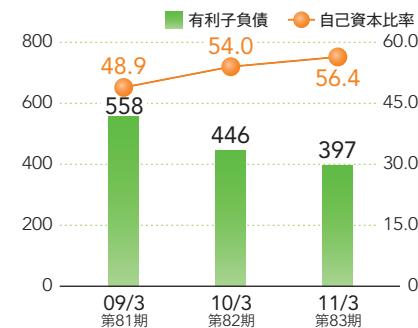
A >> 当社は昨年60周年を迎え、コーポレートメッセージとして「二つとない、をつくる。不二製油」を策定しました。つねに人マネをしないという精神を大切に、二つとない発想・技術・経験をもとに、二つとない製品づくりや提案を進めていきます。また、60年にわたって培った当社のDNAである「技術力」と「海外力」を強みとして、グローバル新時代を切り拓き、株主の皆様へ信頼される「世界の食の素材屋」を目指してまいります。



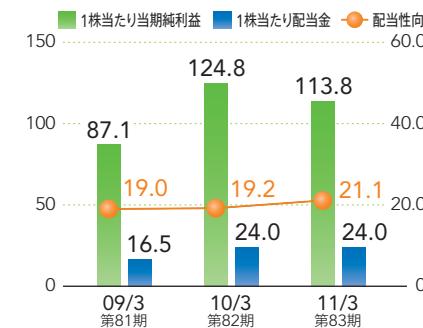
なお、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置づけております。経営基盤確立や成長戦略のために必要な内部留保を維持しつつ、長期的な視野に立ち安定的かつ適正な配当を継続していく方針です。なお当期の期末配当金は1株12円とし、年間の配当金は24円とさせていただきます。

株主の皆様には、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

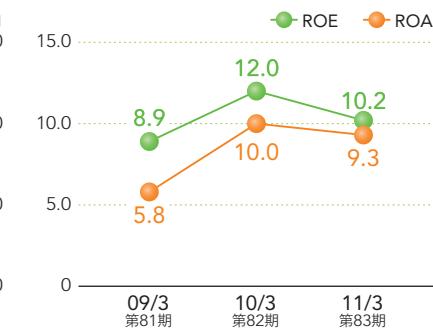
有利子負債(リース債務除く)(億円)
自己資本比率 (%)



1株当たり当期純利益 (円)
1株当たり配当金 (円) 配当性向 (%)



ROE (%) 自己資本当期純利益率
ROA (%) 総資本経常利益率



(注)上記グラフの数値はいずれも連結ベースの数値です。

「新グローバル経営体制」を構築するため 伸びる市場へさらなる事業拡大を図ります。

当社グループは世界各国に拠点を擁し、グローバルに事業を展開しています。
2010年度には、成長するアジアや南米に新しい生産・販売拠点を設立するなど、
経営資源を投入。
さらなる販売拡大・事業拡大へとつなげていきます。

**東南
アジア**

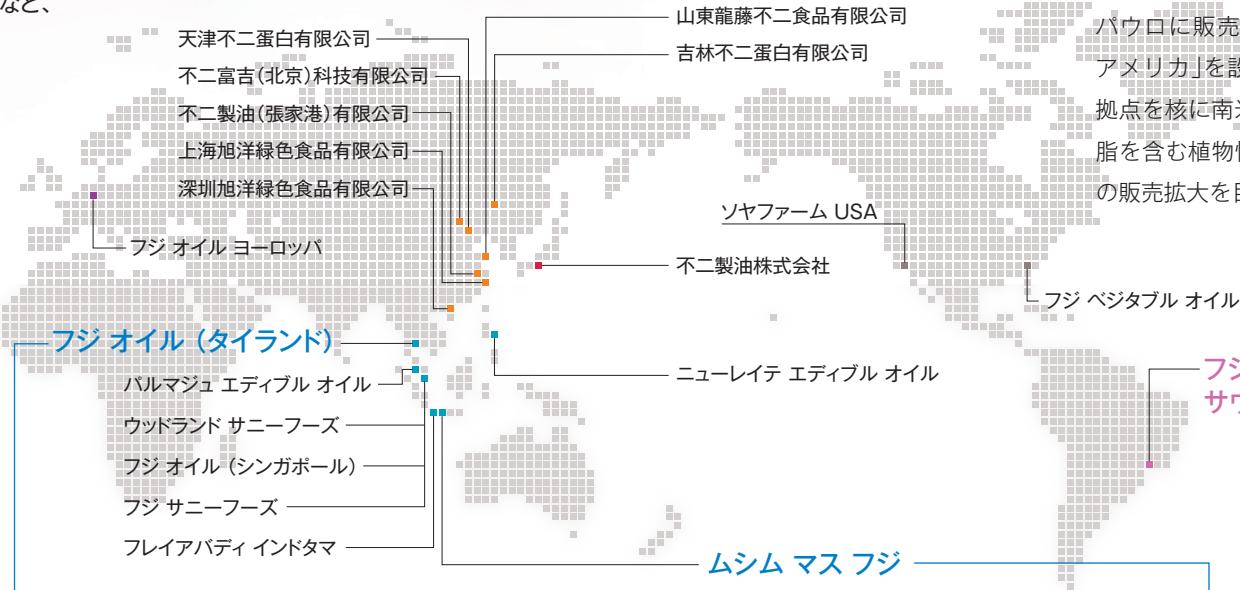
タイ・インドネシアに新拠点を設立し、 事業拡大を図ります。

経済成長が著しい東南アジア市場のなかでも、特に市場拡大が見込まれるタイやインドネシアに新会社を設立いたしました。
タイでは2010年1月、当社子会社のウッドランド サニーフーズ社と伊藤忠商事、伊藤忠タイとの合併で新会社「フジ オイル (タイランド)」を設立しました。同社では、油脂や製菓・製パン素材を製造。タイを中心にカンボジア・ベトナムへの販売拡大を目指します。
インドネシアでは、2010年8月、東南アジアで油脂事業を展開するMUSIM-MASグループのPT MIKIE OLEO NABATI INDUSTRI社と合併会社「ムシム マス フジ」を設立いたしました。今後、加工油脂製品を生産・販売し、加工油脂事業の発展、拡大を図ります。



**フジオイル (タイランド)
FUJI OIL (THAILAND) CO.,LTD**

所在地 タイ王国 ラヨーン(Rayong)県、アマタシティ (Amata City) 工業団地
設立 2010年1月
事業内容 油脂および製菓・製パン素材の製造、販売
操業開始 2011年7月予定
売上目標 2012年度1,740百万THB(約48億円)



南 米

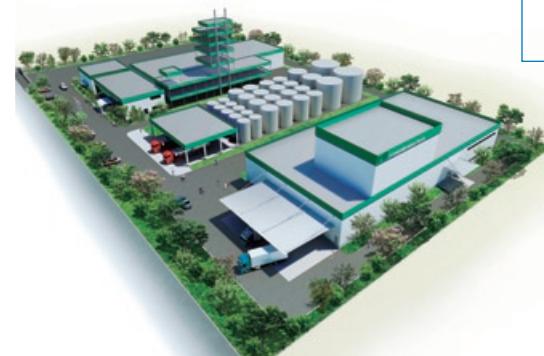
ブラジルに販売拠点を設立し、 加工油脂製品の販売拡大を目指します。

南米市場は中国・東南アジア市場と並び、今後の経済成長が期待される市場です。
当社グループは2010年にブラジル・サンパウロに販売会社「フジ オイル サウス アメリカ」を設立いたしました。今後、新拠点を核に南米市場でのチョコレート油脂を含む植物性油脂をはじめとする製品の販売拡大を目指します。



**フジ オイル サウス アメリカ
FUJI OIL SOUTH AMERICA**

所在地 ブラジル連邦共和国サンパウロ州カンピーナス(Campinas)市
設立 2010年12月
事業内容 加工油脂の販売
営業開始 2010年12月
売上目標 年間販売数量4,000トン



**ムシム マス フジ
PT MUSIM MAS-FUJI**

所在地 インドネシア共和国プカシ(Bekasi)市
設立 2010年8月
事業内容 マーガリン、ショートニングおよび加工油脂の製造・販売
操業開始 2012年1月
売上目標 IDR517,000百万(2014年度予定)

身近な商品に不二製油が開発した素材が使われています。

新製品 油脂加工食品

ゴータペースト

プロセスチーズの風味を活かした フィリング材

ゴータペーストは、塩味系チーズ風味の製菓・製パン用トッピング・フィリング材です。オーストラリア産ゴータチーズを、独自に開発した乳酸菌で発酵させ、プロセスチーズ風味に仕上げています。惣菜パンに使用した場合、ハムやソーセージ等の具材との相性がよく、滑らかでクリーミーな口当たりになります。以下、ゴータペーストを使用した商品化の提案例です。

ゴータペーストを使用した商品化の例

「白いチーズのふんわりロール」

ゴータペーストを上掛けし、ふんわりとボリュームたっぷりに仕上げたチーズ風味のパンです。ソフトなイメージに上げるため、白焼きに仕立てています。



「チーズのたまご」

まるで恐竜の卵のようなイメージのチーズパンです。シンプルな味ながら、ふんわりとした食感で、口溶けもよく仕上げられています。



用途

製菓・製パン用トッピング・フィリング材
ハンバーグやコロケ等の各種惣菜類

製品規格

成分 無脂乳固形分11.0%、乳脂肪分3.0%、
植物性脂肪分20.0%

原材料名 植物油脂、乳製品、乳蛋白、卵黄、
食塩、卵白、増粘剤(加工澱粉)、
pH調整剤、香料、カロチノイド色素

新商品 たん白加工食品

おいしさスッキリエだまめ豆乳飲料

ずんだ餅風味のまろやかな えだまめ豆乳飲料

これまで飲料として使われなかった「えだまめ」を豆乳飲料に仕上げました。まるで和菓子の東北名物「ずんだ餅」のような、まろやかな甘みのある風味です。豆乳と同じ大豆を原料としたえだまめは、豆乳との風味の相性もよく、和素材を使用しながらデザート感覚で飲めるおいしさ飲みやすさを追求しています。栄養価は豆と野菜の両方の特性を持ち、たんぱく質や脂質、炭水化物がバランスよく含まれ、しかもコレステロールゼロ。豆乳に少ないビタミンAや、ビタミンCなども含まれています。Wの大豆パワーで豆乳の健康感をより一層促進します。



本商品は、不二製油グループのトーラク株式会社が、製造および販売しております。

商品内容

品名	豆乳飲料
内容量	200ml
大豆固形分	4%以上
原材料名	大豆(アメリカ)(遺伝子組み換えでない)、砂糖、枝豆、食塩、乳酸Ca、香料、セルロース、安定剤(増粘多糖類)、乳化剤、pH調整剤、着色料(紅花黄、クチナシ)
賞味期限	製造後90日
発売日	2011年3月14日

栄養成分情報 (製品1本(200ml)当たり)

熱量	94kcal
たんぱく質	4.9g
脂質	3.7g
炭水化物	10.2g
ナトリウム	172mg
カルシウム	67mg
コレステロール	0mg
イソフラボン	27mg

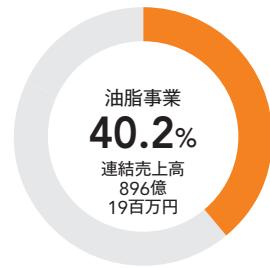
売上構成比

売上高・営業利益の推移

取扱商品

業績の概要

油脂事業



- 油脂
- チョコレート用油脂
 - 製菓用油脂
 - 冷菓用油脂
 - フライ用油脂
 - クリーム用油脂
 - 乳化油脂、粉末油脂、潤滑・離型油



売上高

↑ 7.8%増

営業利益

↓ 16.3%減

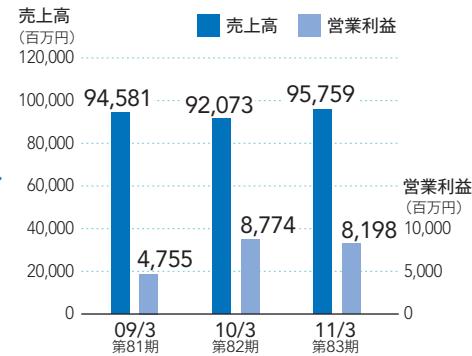
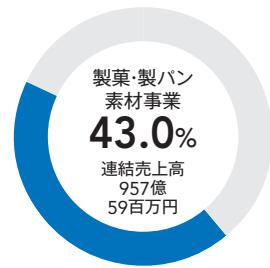
国内

チョコレート用油脂の売上高は前期を下回りましたが、ヤシ油・パーム油の販売が伸び、全体の売上高は前期を上回りました。利益面では、原料価格の上昇により採算が悪化し減益となりました。

海外

チョコレート用油脂は米国及びアジアでの販売が順調に推移し、販売数量は前期に比較し増加いたしました。採算面では期後半より販売価格の下落と原料価格上昇の影響を受けて厳しい状況が続きました。育児粉乳用油脂がアジアで引き続き好調に推移し、米国・欧州でスペシャルティ製品の販売が拡大しましたが、海外全体では増収・減益となりました。

製菓・製パン素材事業



- チョコレート
- カラーチョコレート
 - 製パン用チョコレート
 - アイスチョコレート
 - コーティング
- 乳化・発酵食品
- クリーム
 - マーガリン
- 食品素材輸入
- 粉乳調製品
 - 冷凍生地
 - 調理用素材



売上高

↑ 4.0%増

営業利益

↓ 6.6%減

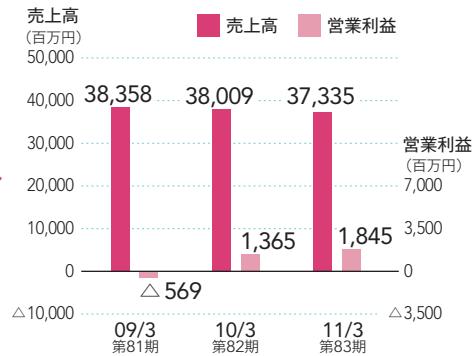
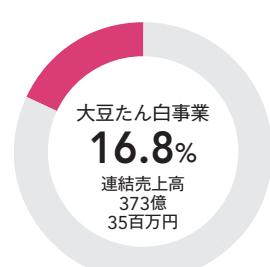
国内

カラーチョコが好調に推移し、業務用チョコレート全体の売上高は前期を上回りました。マーガリンの売上高は前期を上回りましたが、クリームの売上高は、前期を下回りました。製菓・製パン素材輸入販売は、粉乳調製品・ココア調製品の売上高は前期を上回りました。同部門は増収となりましたが、原料価格上昇の影響を受け、減益となりました。

海外

東南アジア市場で業務用チョコレート、クリーム、マーガリン・ショートニングの販売が好調に推移し、増収・増益となりました。

大豆たん白事業



- 大豆たん白素材
- 粉末状大豆たん白
 - 粒状大豆たん白
- 大豆たん白機能剤
- 水溶性大豆多糖類
 - 大豆ペプチド
 - 大豆β-コングリシニン
- 大豆たん白食品



売上高

↓ 1.8%減

営業利益

↑ 35.2%増

国内

大豆たん白食品や大豆たん白機能剤が好調に推移したことに加え、「再生プラン」によるコスト削減効果により、増益となりました。

海外

大豆たん白素材は中国での食肉市場や健康食品向けの販売が伸長するとともに、中国事業再構築の推進により、増収・増益となりました。

日本



アジア



欧米



(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

不二製油グループでは、東日本大震災で被災された方々に対して、以下の支援を実施いたしました。

1. 義援金 (2011年3月実施)

不二製油グループでは、東日本大震災の被災地向けの義援金総額5,000万円を拠出いたしました。

また、不二製油で働く社員および国内外の不二製油グループ会社より被災地支援のための義援金を募り、日本赤十字社を通じて義援金として合計8,192,534円をお送りしました。



支援物資積み込み作業

2. 支援物資 (2011年3月実施)

不二製油グループでは、栄養補給健康飲料、豆乳飲料合計90,000本を被災地へお届けしました。



神戸プリンで東日本大震災の復興を支援

～ 商品売上個数に応じた義援金を寄付 ～

不二製油のグループ会社であるトーラク株式会社(本社:神戸市東灘区向洋町西5丁目5番、代表取締役社長 角谷 武彦)では、東日本大震災に被災された皆様の復興にお役に立ちたいとの思いから、このたび、「神戸プリン」の売上個数に応じた金額を義援金として積み立て、日本赤十字社を通じて寄付させていただくことを決定しました。

同社は1995年の阪神・淡路大震災で被災しましたが、全国の皆様のご支援により復興することができました。今回の東日本大震災では、会社および社員による義援金支援をしてみりましたが、その後追加支援について検討を重ね、今回の決定に至りました。



神戸プリン

<p>< 寄付金額 > 右記対象商品の期間中の売上個数1個につき1円</p> <p>< 期間 > 2011年9月30日(金)まで</p>	<p>< 対象商品 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸プリン (1個入り、4個入り、6個入り、10個入り、15個入り) ・神戸プリン チーズ (1個入り、4個入り) ・神戸プリン チョコ (1個入り、4個入り) ・神戸プリン 生キャラメル (2個入り、4個入り) ・神戸プリン 詰め合わせ (6個入り、9個入り、12個入り、15個入り、24個入り)
--	--

※「神戸プリン」についてはトーラク株式会社の「神戸プリン」サイト(<http://www.kobepudding.com/>)をご参照下さい。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
資産の部		
流動資産	86,166	81,307
固定資産	88,265	92,956
有形固定資産	76,128	80,196
無形固定資産	1,325	1,586
投資その他の資産	10,811	11,172
繰延資産	3	11
資産合計	174,435	174,275
負債の部		
流動負債	48,119	55,261
固定負債	23,095	20,345
負債合計	71,215	75,606
純資産の部		
株主資本	106,187	98,726
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	76,399	68,937
自己株式	△1,745	△1,744
その他の包括利益累計額	△7,863	△4,548
少数株主持分	4,896	4,491
純資産合計	103,220	98,668
負債純資産合計	174,435	174,275

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	222,714	213,229
売上原価	176,760	166,656
売上総利益	45,953	46,572
販売費及び一般管理費	29,363	28,612
営業利益	16,590	17,960
営業外収益	670	524
営業外費用	1,017	1,121
経常利益	16,243	17,363
特別利益	89	723
特別損失	1,684	1,579
税金等調整前当期純利益	14,648	16,507
法人税、住民税及び事業税	4,787	5,111
法人税等調整額	△450	△54
少数株主損益調整前当期純利益	10,311	11,450
少数株主利益	528	724
当期純利益	9,783	10,726

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成23年3月期の期末配当金

平成23年6月21日開催の定時株主総会において、次の剰余金処分をご承認いただきました。

1株当たりの配当金	12円
配当総額	1,031百万円

株式の状況

(平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数 357,324,000株
 発行済株式の総数 87,569,383株
 株主数 18,209名
 1人あたり平均所有株式数 4,809株

大株主

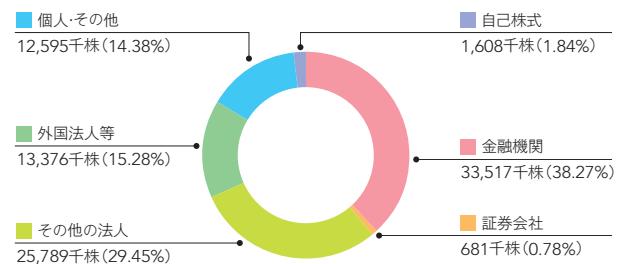
(平成23年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	17,831	20.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,504	6.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,331	3.88
野村信託銀行株式会社(信託口)	3,127	3.64
東京海上日動火災保険株式会社	2,828	3.29
日本生命保険相互会社	2,000	2.33
株式会社三井住友銀行	1,875	2.18
農林中央金庫	1,825	2.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	1,739	2.02
不二製油取引先持株会	1,656	1.93

持株比率は自己株式(1,608千株)を控除して計算しております。

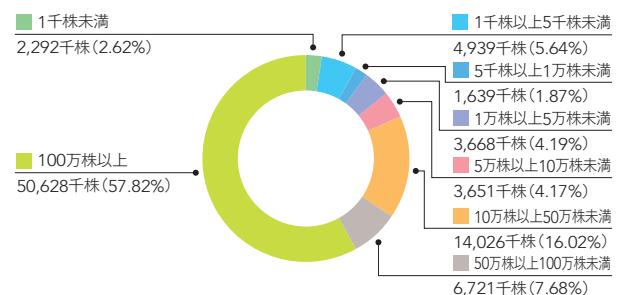
所有者別株式分布状況

(平成23年3月31日現在)

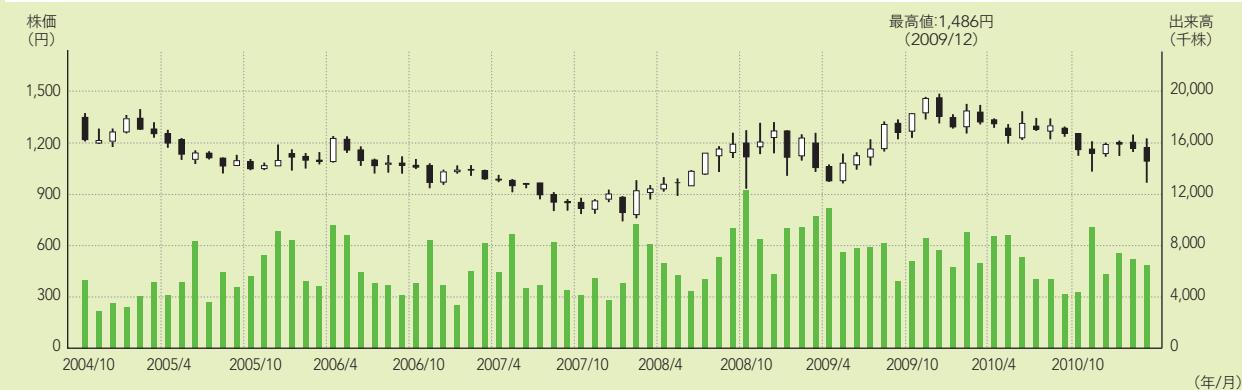


所有株数別株式分布状況

(平成23年3月31日現在)



株価の推移



会社概要

(平成23年3月31日現在)

創 立 1950年(昭和25年)10月
 資 本 金 13,208百万円
 代 表 者 名 代表取締役社長 海老原 善隆
 全グループ従業員数 3,574名
 不二製油従業員数 1,117名

役員

(平成23年6月21日現在)

代表取締役社長	海老原 善隆
代表取締役副社長	河部 博国
専務取締役	山中 敏正
専務取締役	中村 修
常務取締役	岡本 和三
常務取締役	岩朝 央
常務取締役	高木 茂
常務取締役	寺西 進
常務取締役	清水 洋史
常務取締役	前田 裕一
取締役	小林 誠
取締役	内山 哲也
取締役	西村 一郎
取締役	吉田 友行
取締役	久野 貢
取締役	中山 勇
常勤監査役	枘井 俊一
常勤監査役	黒岡 彰
監査役	江名 昌彦
監査役	松本 稔

連結業績概要

(平成23年3月31日現在)

連結売上高 222,714 百万円
 連結経常利益 16,243 百万円
 連結総資産 174,435 百万円

主要海外グループ会社

(平成23年6月21日現在)

フジオイル (シンガポール)	ウッドランド サニーフーズ
フジサニーフーズ	パルマジュ エディブル オイル
フジベジタブル オイル	ソヤファーム USA
フジオイル ヨーロッパ	ニューレイテ エディブル オイル
フレリアパディ インドタマ	フジ オイル (タイランド)
ムシム マス フジ	フジ オイル サウス アメリカ
不二製油 (張家港) 有限公司	吉林不二蛋白有限公司
山東龍藤不二食品有限公司	上海旭洋綠色食品有限公司
深圳旭洋綠色食品有限公司	天津不二蛋白有限公司
不二富吉 (北京) 科技有限公司	

主要国内グループ会社

(平成23年6月21日現在)

トーラク 株式会社	フジフレッシュフーズ 株式会社
ケイ・ピー食品 株式会社	ワルツファンシー 株式会社
不二バター 株式会社	株式会社 フジサニーフーズ九州
株式会社 エフアンドエフ	株式会社 阪南タンクターミナル
千葉ベグオイルタンクターミナル 株式会社	

■ 株主さまへのご優待

1.対象となる株主さま
 毎年3月31日現在の不二製油株式100株以上ご所有の株主さま

2.優待の内容
 ご所有株式数に応じて、以下の優待品を毎年11月上旬にお届けいたします。

ご所有株式数	優待品
100株以上	不二製油グループ製品詰合せ 1,500円相当
1,000株以上	不二製油グループ製品詰合せ 3,000円相当
5,000株以上	不二製油グループ製品詰合せ 4,000円相当

株式のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京・大阪
証券コード	2607

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2607

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト
内にある検索窓に、いいかぶと
4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細
<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用さ
せていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

株式に関するお手続きについて

証券会社でお取引をされている株主様

お手続き
お問い合わせ先 お取引のある証券会社

お手続き内容 住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更等

留意事項 未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会につきましては、株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社 証券代行部が承ります。

特別口座に記録されている株主様

お手続き
お問い合わせ先 住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈郵便物送付先〉 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

〈電話照会先〉 0120-176-417 (平日9:00~17:00)

〈ホームページ〉 <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

お手続き内容 特別口座から一般口座への振替請求、住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更、未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会等

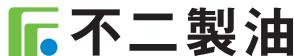
特別口座での留意事項 特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社に口座を開設したうえで株式の振替手続きが必要となります。

[特別口座について]

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様のご所有株式は住友信託銀行株式会社に開設された口座(特別口座)に記録されております。

特別口座の詳細につきましては、上記住友信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。

二つとない、をつくる。


不二製油
<http://www.fujioil.co.jp>